

なかお

第44号

社協だより

みんなが安心して暮らせる支え合いの
まちづくり

発行者 中尾校区
社会福祉協議会
発行責任者 島崎 勝喜
事務局 中尾市民センター内
(TEL 612-3881)
編集 広報部



令和6年2月26日 サロン活動「五目お手玉にて」

我が人生を考える

中尾校区社会福祉協議会

副会長 四辻 政俊

私は43才の時沖田一丁目に住むことになり63才から町内の公園愛護会の会長を続け、町内会長も担当させていただきました。今の私はなぜここにいるのだろうかと考える中で、これからの目標をつくりました。

「朝こそすべて・感謝・健康・志・今日一日をありがとう」

今の私をつくり上げてくれた父、母、兄弟、友人、地域の皆様にお世話になったお返しをしたいと、誘われて社会福祉協議会に入り活動をしています。高齢者の一人暮らし、家族の安心・安全を見守りする中で、多くの人と交わることが出来、センターで行事に参加し、少しでも役に立てればと考えています。

地域の人に少しでも感謝をお返し出来ればと、これからも活動を続け、楽しい人生にしたいと考えています。これからもよろしくお願いします。

【サロン事業】 ニュースポーツでフレイルにさよなら

○輪投げ・トリコキューブ（第2月曜日 10時～） ○五目お手玉（第4月曜日 10時～）

○きたきゅう体操（第2・4水曜日 10時～） ○ペタンク（第1月曜日 9時30分～）

※三世代交流ファミリーバドミントン・ディスコン（第2火曜日 19時～）中尾小学校体育館にて

*令和6年度も実施します。どなたでも簡単にできる楽しいニュースポーツです。気軽にご参加ください。いっしょに健康寿命を伸ばしませんか。申し込みは不要です。



令和6年2月26日(月)、五目お手玉を楽しみました。
スポーツの前には健康推進員の竹之内さんご指導の下、
しっかり準備運動をします。



休憩時間のおしゃべりも楽しみの一つ。
時々参加賞、景品もありますよ。

それぞれ10個のお手玉を順番に投げてマス目に入れ、3つ並ぶと1点、4つ並ぶと2点、5つ並ぶと5点！自分のチームの玉を並べながら、相手チームがうまく並ばないように、時にはぶつけて押し出しも…体も頭も使います。



賛助会員にご加入いただいたみなさま、ありがとうございました。

～個人会員さま1口千円（年額）より～

（順不同・敬称略）

- ・桑園 英樹・竹之内 正浩・永田 文夫・吉田 幸一・浦山 利幸
- ・山崎 輝彦・松木 邦弘・渡辺 敬子・中野 リョウコ・岡部 和彦・室江 順子・峯松 正明
- ・小野 貴志・泉 義博・板橋 美和子・岩尾 潤子・大塚 りこ・陣内 由美・島崎 勝喜・島崎 繁子
- ・田原 明・畠中 紀雄・畠中 秀子・桑原 孝二・桑原 真理子・大森 重範・梶見 貢
- ・石打 保廣・石打 奈津江・藤原 康憲・木下 哲治・原田 由香・北島 奈保美・佐藤 康子
- ・服部 恒博・金田 英一・金田 裕美子・四辻 俊政・四辻 ツヤ子・仰木 富美子・藤本 絵美



赤い羽根共同募金にご協力いただき、ありがとうございました。

- ・福地内科循環器科・医療法人 新生会病院・たかとり歯科クリニック・おかだ外科胃腸科クリニック
- ・うらはし整形外科クリニック・医療法人 末次医院・医療法人 そのだ整形外科医院・西野歯科医院
- ・岡本眼科医院・多田歯科医院・(有) 永松ガス住設・石井歯科医院・浦山時計店

（順不同・敬称略）

福祉協力員雑感

2班福祉協力員 岩尾 閨子

福祉協力員になって十余年。一人暮らしの方はかなり永い間不動のメンバーでしたが、最近転居された方あり、そしていつしか私もメンバーの一員になっていました。

協力員に成り立ての頃、買い物中にお店の中でお会いして立話。遠くに見付けて、あゝお元気だなと確認していました。班毎の催し物、又全体の食事会等を心待ちにされている方もいらつしやいましたが、コロナ禍になり世の中全てが変わっていった事に伴い行事中止、外出控え等に依り動静を知るチャンスが減ってきました。

年明け早々の能登半島地震の報道に依れば御多分に洩れず高齢者が多くいらしたとの事。私達の地域も然りです。能登では「お正月で帰省中の若い人達の避難誘導で助かりました」との言葉がありました。

やはり各年代の人達が途切れる事なく…と言っても仕方ないですね。現状で出来る事は老いを防ぎ、明るく元気に！でも腰が痛い。

『香典返し寄付』

ご遺族から中尾校区社会福祉協議会に香典返しとしてご寄付をいただき、誠にありがとうございました。地域福祉のために活用させていただきます。

故人氏名

▽金田 裕美子



『市社協会長表彰』

※社会福祉奉仕者（個人）

～活動歴5年以上～

泉 雅子 ・ 岩淵 恵美子

※社会福祉奉仕者（感謝）

～活動歴15年以上～

岩森 房子 ・ 畠中 紀雄

金田 裕美子

ツナグ ということ

中尾校区社会福祉協議会 事務局・広報部 藤本 絵美

昨年10月、金田会長がお亡くなりになりました。いつも明るく元気でパワフルな姿を見ているうちに、ご病気であることを意識せずに接しておりましたので、突然の訃報にショックを受けました。

市民センター館長や社会教育主事として長年地域課題と向き合ってきた後、中尾社協の会長に就任されたので知識と経験が豊富な方でしたが、「よりよくしたい思いはあるけど、これまでのやり方も大切に、つないでいく」と、みんなの意見と思いを尊重しながら、新しい取り組みをされていきました。昨年度の小地域活動計画を立案するにあたり、金田会長の思いに触れる機会がありました。「今は高齢者の孤立を防ぐことに注力しているふれあいネットワーク活動だが、これからは様々な困りごとを抱えるすべての世帯に広めていきたい。子育てに悩んでいる、病気の家族を支えている等、外からは見えにくい多種多様な困難を抱える世帯を地域で支えていきたい」と。

昨年、中尾市民センターと中尾社協が共催し、不登校について学ぶ講座を開催しましたが「地域みなさんに不登校について知ってもらいたい。地域にできることは何か、自分も学びたい」という、金田会長の思いから始まり、講師への交渉や打ち合わせも自ら積極的にされました。

会長としての推進力はもちろん、相手の気持ちに寄り添う姿、自分でできることは何でもやるという姿勢、ポジティブで外交的なところ、聞き上手で話し上手なところ等々、魅力に溢れる方なので、一緒に活動できることが楽しく、かけがえのない時間でした。

なかお社協だよりも、いつも二人でおしゃべりしながら作っていたので、「自分たちの活動をしっかりと発信し、多くの人に関心を持ってもらいたい。だから広報は大切」という会長の言葉が頭をよぎります。

こうして金田会長の軌跡、お人柄、お言葉をお伝えすることで、その思いをつなげていけると信じています。中尾社協の活動に心を寄せて下さる仲間が一人でも増えますように。

三世代交流 ふれあいウォーキング



令和5年11月3日(金・祝)

大人6名、小学生7名、沖田中学校野球部9名が参加し、秋晴れの中、金山川遊歩道を通り瀬板の森公園まで行ってきました。

瀬板の森で昼食をとった後、わなげ遊び。子どもたちの明るい笑顔のおかげで、大人も元気が湧いてきます。「よし、帰りもがんばって歩くぞ!」

～続けていきたい、大切な三世代交流事業～



三世代交流を通して

中尾校区社会福祉協議会地域交流部会長 吉田 幸一

日頃より、中尾校区社会福祉協議会の活動にご参加、ご協力ありがとうございます。昨年までコロナの影響により中止していた三世代交流ウォーキングを今年はようやく再開することができました。

三世代交流は、子どもたちと親、祖父母世代の人たちが交流することにより、子どもの自主性を育み、高齢者も子どもから元気をもらう地域のふれあいの活動であり、子どもにとっては、孤独緩和、社会性の習得、思いやりの心を育てることができ、高齢者にとっては、社会参加、認知症の予防、生きがいや楽しみを目的としていました。

昨今では、子どもの不登校、高齢化が進み、外出不足、認知症が課題となり、地域活動のふれあい参加が減少傾向にあります。

中尾校区でも、ウォーキングもそうですが、ほかの活動においても、参加者が減少傾向にあります。高齢化が進んでいるのではと実感させられ、今まで実施していた活動から減少原因を把握し、参加者増員に向けて、今の時代に合った活動に変革する必要があるのではないかと考えさせられました。

今、中尾校区社協では、住みやすい地域のまちづくりとして、昨年、5年先を見据えた活動を始めました。重点実施項目は「ふれあいネットワーク活動の再構築」、「次世代の地域福祉活動の担い手の育成と発掘」として活動しています。

三世代交流を通して、地域の交流が進めば、さまざまな場面、例えば災害時の助け合い、高齢者や子どもの見守りなどにも繋がります。地域の方の知識、経験を活かし、お互いに認め合い、助け合い、他人事ではなく個人が地域社会の一員としての活動ができる場を目指しましょう。

高齢者や子どもたち、その親世代などが、世代の枠を越えて交流しながら、喜び、楽しさ、時に厳しくお互いを支えあえる地域の交流になればと思っています。

今後も「三世代交流」を通して、楽しく地域のふれあいができる福祉活動の推進に努めて参ります。みなさんで楽しい地域を作っていきます。